

大学生の一般的老人イメージと将来の自己老人イメージ

－老人観スケールを用いた分析－

高橋 一公

I はじめに

1. 老人観の変遷

日本人における老人観は時代とともに変化してきた。前近代においては「老病は自然なり」の覚悟を持って老病と対峙し、老いや死は必然的なものとしてとらえられていた。近代に至っては「養老」の精神を掲げる者が多く、老人を敬愛の対象としてとらえていたようである（新村 1991）。しかし、現代では社会生活における依存性の増大によって高齢者の生活適応をネガティブにとらえてしまう傾向が強い。特に高齢者や高齢者問題に関心ないものは高齢者のイメージをネガティブにとらえる傾向がある（保坂、袖井、1988）。このような社会からの高齢者に対するイメージが高齢者自身に影響を与えていることも否定できない。

平安後期の貴族大江匡房が晩年に作った漢詩『病中閑吟』の冒頭で「老いに臨んで多病は是常の談なり、四種の法の中、すでに三つは盡く」と詠んでいる。老いて多病なのは当たり前のことであり、生老病死のうち死を除く3つはすでに経験したこととしている。前近代においては「老病」が自然なものとしてひとつの老人観を形成していたようである。しかし、この時代も決して健康や体力だけに価値を置いていたわけではない。吉田兼好の『徒然草』では「老いて智の若き時にまされる事、若くして、かたちの老いるにまされるが如し」と述べ、老人の智に価値を置いている。また、貝原益軒の『養生訓』において人は50歳に至らなければ「血氣いまだ定まらず、知恵いまだ開けず」と、経験の蓄積と円熟した人格の形成が「老い」によってもたらされるとし、その価値を認めている。

現代日本における老人観を規定する要因として参考になると思われるのが『老人福祉法』の条文である。1963年に制定された老人福祉法の基本理念である第2条には、「老人は、多年にわたり社会の進展に寄与してきた者として敬愛され、かつ、健全で安らかな生活を保障されるものとする。」となっていた。森（1989）は、この条文について「これは老人も昔は経済活動人口、生産年齢人口であったことに着目し、経済活動の見地から老人を『労働力』の延長線上に置いて把握したものだ」と述べている。この基本理念は1990年の老人福祉法の改正により、「老人は、多年にわたり社会の進展に寄与してきた者として、かつ、豊富な知識と経験を有する者として敬愛されるとともに、生きがいを持てる健全で安らかな生活を保障されるもの

とする。」と修正された。そこには豊富な知識と経験に対する敬意と老人の自主性が表現されるようになったが、老人を労働生産性の延長上に置くことから脱却したとはいえない。

それでは、若者たちは老人をどのように見ているのであろうか。中谷（1991）は、定義としては厳密なものではないとしながらも「高齢者に対する主観的なとらえ方」という態度的な意味を含ませた「老人観」という定義を用いて児童の老人観の測定を試みている。その結果「身体に関する老人観」「情緒に関する老人観」「行動に関する老人観」という3つの主成分を抽出し、児童のポジティブな老人観に影響を与えているものは児童と高齢者との交流の頻度であることを見出している。特に高齢者の情緒面に対する評価について中谷は、「高齢者を単に目にすることによって形成される身体面・行動面の評価とは異なり、高齢者との対話などにより密度の濃い交流によって形成されることを示唆していると思われる」としている。

保坂と袖井（1986）は、大学生は老人の人格や存在意識は認めているものの「老人と近づきたいと思いますか」という質問に対しては「何ともいえない」と答えたものが4割と多く、老人とは一定の距離を置いて接したいという大学生の態度が現われていると論じている。それに対して、看護学生に対して行われた大塚ら（1999）のセマンティック・ディファレンシャル法（以下SD法）を用いた老人のイメージに関する研究では、老人に対して全体的にポジティブなイメージを持つことが示されていることが報告されている。具体的には「暖かい」「尊敬できる」「思いやりがある」「やさしい」という項目でポジティブな評価がされているとしている。しかし、「考えが古い」「頑固」「弱い」という項目ではネガティブな評価がされていたとしている。さらに老人のイメージに深く関与していると思われる要因として「祖父母との会話の頻度」をあげ、老人看護教育において老人との会話を持てるようなさまざまな機会を提供することの必要性を論じている。

2. 老人イメージの測定

老人観の測定に関しては大きく分けて4つのタイプがあることが知られている。1つめは老人観スケールを用いたものでリカート法などの尺度を用いた方法である。2つめは人物画や写真などを用いた対人知覚測定の方法である。3つめは文章完成法に見られるような自由回答の具体的な分析であると言う。そして4つめがSD法を用いたものである（中谷 1991）。

老人イメージの測定ではこの4つの測定法のうちSD法を用いた調査がその多くを占めている。使用される形容対とその数には違いは見られるが前述の保坂と袖井（1986）、大塚ら（1999）をはじめとして、保坂と袖井（1988）、中野ら（1991、1994）、古谷野ら（1997）、高橋（2006）などがイメージ測定の代表的な手法として用いている。

一方、「老人観スケール」を用いた研究も行われている。老人観スケールとしては以下にあげるものが代表的なものと考えられる。Tuckmanら（Tuckman & Lorge, 1953）は13カテゴリ

ー137項目からなる"Old People Questionnaire"を考案している。しかし、妥当性、信頼性に関する疑問や回答時間がかかりすぎる、老人に対する知識の測定が含まれているなどの短所が指摘されている。またKogan (1961) のOPスケール(Kogan Attitude Toward Old People Scale)も老人観スケールとして知られているが「知識」と「態度」の混在と妥当性についての懸念が示されている。さらにOlejnikとLaRueは(1981)はTuckmanらの"Old People Questionnaire"を修正して68項目のスケールを作成している。これは児童と高齢者の接触頻度を増加させることによって老年観を変化させるためのプログラムの効果測定のために作られたものである。

日本においては中谷(1991)が小学生を対象にOlejnikとLaRueの使用したスケールから18項目を取り出して老年観の測定を試みている。このスケールでは対象に対する配慮と回答率をあげるために「はい」「いいえ」の2件法が採用されている。中谷はこのスケールを用いて主成分分析を行い前述した「身体に関する老人観」「情緒に関する老人観」「行動に関する老人観」の3つの主成分を抽出している。馬場ら(1993)は中谷のスケールに改訂を加えたスケールを作成して中学生に対する老年観の測定を試みている。これは"Tuckman-Lorge Old People Questionnaire"の修正版とKogan(1961)のOPスケールを検討し、25項目のスケールに修正したものである。そして主成分分析を行い「健康・死に関する次元」「社会性に関する次元」「頑固さ・保守性に関する次元」そして「幸福感に関する次元」の4つの主成分を抽出している。

しかし、老人観スケールを用いた研究結果は必ずしも一貫しているわけではないようである。中谷が述べているように老人観スケールに問題があるのに加えて、老人観に影響を与える要因についての研究結果も矛盾するものが多いと言う。PalmoreやGreenによれば、高齢者に対するイメージや態度は他の年代に比べてネガティブなものが強いという反面、ポジティブな側面も存在し両者が混在していると言う事実も見られ、ネガティブなものがポジティブなものを排除するといった関係ではないとしている。

II. 研究の目的

今回の研究では馬場らの老年観スケールの25項目を用いて大学生の「一般的老人イメージ」と将来自身が老人と呼ばれるようになった時の「自己老人イメージ」を測定するとともに、その両者を比較することを目的とする。

III. 方法

1. 調査対象者

首都近郊の大学に在籍する学生(福祉系を除く社会科学系専攻者) 358名。

2. 調査方法

集合方式で調査を実施した。実施時期は平成18年12月～平成19年1月。馬場ら（1993）の老年観スケールの項目を用い、「一般的老人イメージ」と「自己老人イメージ」について4段階の評定尺度（あてはまる・ややあてはまる・あまりあてはまらない・まったくあてはまらない）を付して評価を求めた。また、「祖父母との同居経験」については「同居している」「同居したことがある」「同居していない」から、「高齢者との交流経験」については「多い」「普通」「少ない」「わからない」から主観的な判断として回答を求めた。

さらに「あなたは何歳以上を『老人』と考えて、これまでの質問にお答えになりましたか」という設問を付加し、主観的な「老人年齢」の回答を求めた。

IV. 結 果

1. 属性

- (1) 被験者：首都近郊の大学に在籍する4年制大学生（社会科学系専攻者、福祉系専攻者は除く）358名（男性：244名、女性：114名）。
- (2) 年 齢：平均年齢 20.937歳（SD=1.233歳）
- (3) 学 年：表1の通り

表1 学年分布

学 年	度数	パーセント
1 学年	4	1.1
2 学年	139	38.8
3 学年	157	43.9
4 学年	58	16.2
合 計	358	100.0

- (4) 学 部：表2の通り

表2 学年分布

学 部	度数	パーセント
法学部	99	27.7
経済学部	214	59.8
経営学部	3	.8
商学部	42	11.7
合 計	358	100.0

- (5) 祖父母との同居経験：表3の通り

表3 祖父母との同居

同居経験	度数	パーセント
同居している	66	18.4
同居したことがある	86	24.0
同居していない	206	57.5
合 計	358	100.0

(6) 高齢者との交流経験：表4の通り

表4 高齢者との交流経験

学 年	度数	パーセント
多い	67	18.7
普通	144	40.2
少ない	141	39.4
わからない	6	1.7
合 計	358	100.0

(7) 主観的な老人年齢：

平均 66.472歳 (SD=5.427)

2. 一般的老人イメージと自己老人イメージについて

一般的老人イメージと自己老人イメージの各項目のプロフィールは図1のようになった（基礎統計量は資料1）。一般的老人イメージにおける特徴は、「もう一度若くなりたいと願っている」「自分のやり方をかえない」「忘れっぽい」「自分の健康について心配している」「豊かな経験や知識を持っている」という項目について“あてはまる”とする傾向（評価平均が“2”未満）が見られた。逆に、「不幸だと思っている」「息子や孫の迷惑になっている」「死ぬことを怖がっている」「自分をみじめだと思っている」という項目については“あてはまらない”する傾向（評価平均が“3”以上）が見られた。

自己老人イメージでは、「もう一度若くなりたいと願っている」「孫を甘やかしている」「自分の健康について心配している」という項目について

“あてはまる”とする傾向（評価平均が“2”未満）が見られた。逆に、「不

幸だと思っている」「髪や服装に気をつかわず、だらしない」という項目については“あては

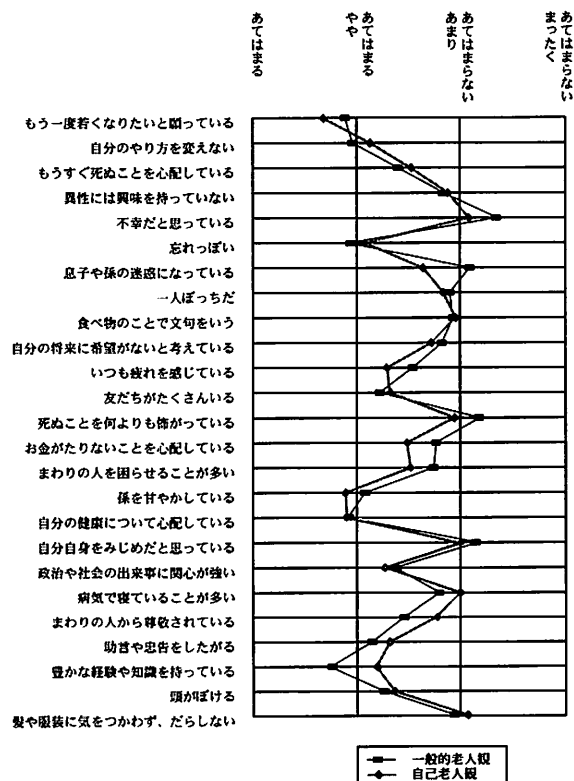


図1 一般的老人イメージと自己老人イメージのプロフィール

まらない”とする傾向（評価平均が“3”以上）が見られた。

3. 一般的老人イメージと自己老人イメージの差

一般的老人イメージと自己老人イメージの評価値平均の比較において有意差が見られ、自己老人イメージの方が“あてはまる”と評価されていた項目は、「もう一度若くなりたいと願っている」($t=4.2004$, $df=357$, $p<0.0000$)、「不幸だと思っている」($t=5.6902$, $df=350$, $p<0.0000$)、「息子や孫の迷惑になっている」($t=8.0960$, $df=355$, $p<0.0000$)、「自分の将来に希望がないと考えている」($t=2.0668$, $df=356$, $p<0.0395$)、「いつも疲れを感じている」($t=4.42080$, $df=354$, $p<0.0000$)、「死ぬことを何よりも怖がっている」($t=4.1671$, $df=353$, $p<0.0000$)、「お金がたりないことを心配している」($t=4.8623$, $df=354$, $p<0.00006$)、「まわりの人を困らせることが多い」($t=3.9079$, $df=356$, $p<0.0001$)、「孫を甘やかしている」($t=2.843968$, $df=353$, $p<0.0047$)、「自分自身をみじめだと思っている」($t=3.495943$, $df=352$, $p<0.0005$)であった。

また、一般的老人イメージと自己老人イメージの評価値平均の比較において有意差が見られ、一般的老人イメージの方が「あてはまる」と評価されていた項目は、「自分のやり方を変えない」($t=-2.6325$, $df=356$, $p<0.0088$)、「病気で寝ていることが多い」($t=-3.176$, $df=355$, $p<0.0016$)、「まわりの人から尊敬されている」($t=-6.0079$, $df=355$, $p<0.0000$)、「助言や忠告をしたがる」($t=-3.0902$, $df=356$, $p<0.0022$)、「豊かな経験や知識を持っている」($t=-8.1365$, $df=357$, $p<0.0000$)、「頭がぼける」($t=-2.17497$, $df=352$, $p<0.0303$)であった。

4. 「祖父母との同居」経験別イメージ

「一般的老人イメージ」については「祖父母との同居」経験別に有意差は見られなかった。「自己老人イメージ」では「息子や孫の迷惑になっている」に有意差が見られ($t=4.2547$, $df=2$, $p<0.0149$)、多重比較検定(Bonferroni)をおこなった結果、「同居したことがある」と「同居していない」の間に有意差が見られた。「同居したことがある」グループの方が「同居していない」グループよりも「迷惑になっている」と考えているようである(基礎統計量は資料2、3)。

5. 「高齢者との交流経験」別イメージ

「一般的老人イメージ」「自己老人イメージ」では回答カテゴリーの“わからない”を除いた“多い”“普通”“少ない”の3カテゴリーで分析を行った(基礎統計量は資料4、5)。

「一般的老人イメージ」では「友だちがたくさいる」「まわりの人を困らせることが多い」

「病気で寝ていることが多い」で有意差が見られた ($f=4.871$ $df=2$ $p<0.0082$ 、 $f=3.320$ $df=2$ $p<0.0373$ 、 $f=4.470$ $df=2$ $p<0.0121$)。さらに多重比較検定 (Bonferroni) をおこなった結果、「友だちがたくさいる」では“多い”グループが“少ない”グループよりも「友人が多い」と感じており、「病気で寝ていることが多い」では“少ない”グループが“普通”グループよりも「病気で寝ていることが多い」と捉えていることが示された。「まわりの人を困らせることが多い」については多重比較での有意差は見られなかったが、交流頻度が少ない程「困らせることが多い」とする傾向が示されている。

「自己老人イメージ」(図2) では「一人ぼっちだ」「友だちがたくさん

いる」「まわりの人を困らせることが多い」「孫を甘やかしている」「助言や忠告をしたがる」「豊かな経験や知識を持っている」「髪や服装に気をつかわず、だらしない」で有意差が見られた ($f=4.789$ $df=2$ $p<0.0089$ 、 $f=4.311$ $df=2$ $p<0.0141$ 、 $f=5.628$ $df=2$ $p<0.0039$ 、 $f=4.519$ $df=2$ $p<0.0115$ 、 $f=5.000$ $df=2$ $p<0.00723$ 、 $f=5.336$ $df=2$ $p<0.00521$ 、 $f=3.3798$ $df=2$ $p<0.0352$)。さらに多重比較検定 (Bonferroni) をおこなった結果、「孫を甘やかしている」「豊かな経験や知識を持っている」は交流頻度が“多い”グループと“少ない”グループ間に有意差が見られた。「助言や忠告をしたがる」では“多い”グループと“少ない”グループ間、“普通”グループと“少ない”グループ間に有意差が見られた。「友だちがたくさいる」についても“普通”グループと“少ない”グループ間に有意差が見られた。逆に「一人ぼっちだ」は“普通”グループと“少ない”グループ間に有意差が見られ、交流頻度が多い方が「一人ぼっち」ではないと見る傾向が示されている。「髪や服装に気をつかわず、だらしない」では多重比較検定では有意差は見られなかったが、交流頻度が少ない方が“あてはまる”傾向が示されている。

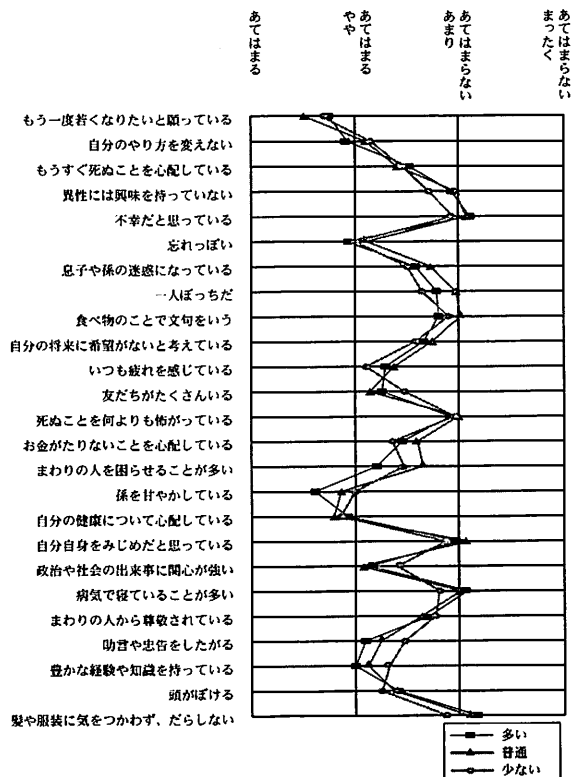


図2 交流経験別自己老人イメージのプロフィール

6. 「老人」年齢

平均年齢は66.4719歳、標準偏差は5.4268歳であった。一般に論じられている「高齢者」を規定する年齢に非常に近いものになっている。

7. 因子分析

(1) 「一般的老人イメージ」による因子分析

表6 一般的老人イメージの因子分析

項 目	因 子			
	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
頭がぼける	0.614874	-0.13154	0.036878	0.416512
忘れっぽい	0.551487	-0.19213	-0.04047	0.174446
息子や孫の迷惑になっている	0.549895	0.000616	-0.0865	-0.0002
まわりの人を困らせることが多い	0.53329	0.098889	-0.10412	0.104566
食べ物のことで文句をいう	0.515821	-0.0618	0.21312	-0.21404
病気で寝ていることが多い	0.451573	0.063659	0.245418	0.115
一人ぼっちだ	0.439538	0.125614	0.064334	-0.07493
髪や服装に気をつかわず、だらしない	0.415479	0.156297	-0.07892	0.029448
友だちがたくさいる	-0.38764	0.064917	0.275744	0.066594
死ぬことを何よりも怖がっている	-0.17474	0.74001	0.152629	0.100456
もうすぐ死ぬことを心配している	-0.04502	0.553363	0.06175	0.316944
自分自身をみじめだと思っている	0.326946	0.490266	0.01526	-0.16584
自分の将来に希望がないと考えている	0.18403	0.489111	-0.15685	0.027165
もう一度若くなりたいと願っている	-0.12003	0.465567	-0.11708	0.142404
お金がたりないことを心配している	-0.02588	0.402927	0.061235	-0.07144
不幸だと思っている	0.249779	0.390699	0.009603	-0.23929
いつも疲れを感じている	0.173666	0.388286	-0.11889	-0.00502
まわりの人から尊敬されている	-0.01023	-0.11979	0.713513	-0.15113
政治や社会の出来事に関心が強い	0.005934	0.114261	0.560823	0.013569
豊かな経験や知識を持っている	-0.06373	-0.06653	0.540111	0.197592
助言や忠告をしたがる	0.279265	0.060074	0.37823	0.094936
自分の健康について心配している	-0.11448	0.169589	0.044498	0.432999
孫を甘やかしている	0.141635	-0.03584	-0.02651	0.357496

因子抽出法：主因子法 回転法：Kaiserの正規化を伴うプロマックス法

「一般的老人イメージ」に関する25項目から因子分析を用いて因子の抽出を試みた。その結果、表6のような結果が示された（主因子法、プロマックス回転による）。なお、「一般的老人イメージ」では共通性が低かった項目2「自分のやり方を変えない」と項目4「異性には興味を持っていない」を除いて分析を試み、結果4因子を抽出した。第1因子は「衰え」に関する因子で、記憶の障害や人間関係の縮小に関する項目が中心となっている。第2因子は「現実的不安」に関する因子で、死に対する恐怖や将来に対する希望の限定、生活に対する不安に関する項目が中心となっている。第3因子は「経験・知識」に関する因子で、畏敬の対象としての存在や博識に関する項目が中心である。第4因子は「関心の方向性」に関する因子で、自己の健康や孫の存在が生活の大きな位置を占める可能性を示唆したものと考えられる。

大学生の持つ「一般的老人イメージ」は社会通念上からかけ離れたものではなく、むしろそれにかかなり近いものと考えることができるのではないだろうか。

(2) 「自己の老人イメージ」による因子分析

表7 自己老人イメージの因子分析

項 目	因 子			
	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
不幸だと思っている	0.800035	-0.23353	0.055731	-0.00235
自分自身をみじめだと思っている	0.761893	-0.10303	0.13659	0.006595
自分の将来に希望がないと考えている	0.58759	0.045357	0.128324	-0.08275
一人ぼっちだ	0.553742	0.132693	-0.09244	-0.15247
病気で寝ていることが多い	0.544825	0.30159	-0.17658	0.198309
髪や服装に気をつかわず、だらしない	0.507431	0.143897	-0.19583	0.004209
異性には興味を持っていない	0.370169	-0.04571	-0.01588	-0.13265
友だちがたくさいる	-0.35492	-0.15406	0.222049	0.198377
いつも疲れを感じている	0.35074	0.191647	0.137649	-0.02936
食べ物のことで文句をいう	0.289112	0.160445	-0.02117	0.256449
まわりの人を困らせることが多い	0.008573	0.649432	0.072233	0.008488
息子や孫の迷惑になっている	-0.05977	0.635847	0.057495	-0.01659
忘れっぽい	-0.06101	0.591378	0.0958	-0.02141
頭がぼける	0.049745	0.590134	-0.05104	0.123087
お金がたりないことを心配している	0.228141	0.343767	0.216779	-0.02574
もうすぐ死ぬことを心配している	0.094538	0.014547	0.697848	0.0256
死ぬことを何よりも怖がっている	0.195667	-0.07176	0.697634	0.048872
もう一度若くなりたいと願っている	-0.07895	0.023264	0.491124	-0.05047
自分の健康について心配している	-0.20703	0.208754	0.445941	0.007796
まわりの人から尊敬されている	0.063253	-0.25797	-0.04761	0.701956
豊かな経験や知識を持っている	-0.13169	-0.03306	-0.00045	0.668039
助言や忠告をしたがる	-0.00371	0.261859	0.031893	0.591925
政治や社会の出来事に関心が強い	-0.0485	0.086168	-0.00358	0.35567

因子抽出法：主因子法 回転法：Kaiserの正規化を伴うプロマックス法

「自己老人イメージ」に関する25項目から因子分析を用いて因子の抽出を試みた。その結果、表7のような結果が示された（主因子法、プロマックス回転による）。なお、「自己老人イメージ」についても共通性の低かった項目2「自分のやり方を変えない」と項目16「孫を甘やかしている」を除いて分析を行い4因子を抽出した。

第1因子は「老後不安」に関する因子で将来に対する不安や老いることによる惨めさ、不幸感を示す項目が中心となっている。第2因子は「負担感」に関する因子であり、自身が要介護状態や認知症を発症した場合に考えられる家族や周囲に対する負担感を示すものが中心となっている。第3因子は「死」に関する因子で、死に対する恐怖や若さに対する羨望を意識した項目となっている。第4因子は「経験・知識」に関する因子で、畏敬の対象としての存在や博識に関する項目が中心である。

大学生の「自己老人イメージ」に関しては、「一般的老人イメージ」とは異なり、大学生の将来に対する不安を示したものとしてイメージ化されているようである。青年期特有の不安感や死に対する恐怖が「自己老人イメージ」と重なり合い、独特なイメージを構成している可能性があり、自我同一性などの関係の中で更なる分析が必要と考えられる。

V. 考察とまとめ

1. 評価値による「一般的老人イメージ」と「自己老人イメージ」

(1) 一般的老人イメージ

「一般的老人イメージ」は世間一般が有しているイメージとかなり共通している部分があると思われる。「もう一度若くなりたいと願っている」「自分のやり方をかえない」「忘れっぽい」「自分の健康について心配している」「豊かな経験や知識を持っている」など“若さ願望”や“固さ”、“心身の衰え”などのネガティブなイメージとともに経験豊富な“賢者”としてのイメージも備わっているようである。また、「不幸だと思っている」「息子や孫の迷惑になっている」「死ぬことを怖がっている」「自分をみじめだと思っている」という項目の評価値平均が低いことから、“幸福感”や“死に対する超越”ともとらえられるようなイメージを有していることがうかがえる。

(2) 自己老人イメージ

「一般的老人イメージ」に対して「自己老人イメージ」はネガティブなイメージを有している部分が見られる。「もう一度若くなりたいと願っている」「孫を甘やかしている」「自分の健康について心配している」など“若さ願望”や“心身の衰え”といったイメージは「一般的老人イメージ」と同様に見られるが、経験に基づく経験や知識を持つことを象徴するような“智慧”に関するものに対しては、不安を感じている様子も見られる。

しかし、「不幸だと思っている」「髪や服装に気をつかわず、だらしない」などの項目に代表

されるような、自分が将来「不幸になる」ことに対しては不安は見られず、洒落た生活を想像する現代的な考え方も垣間見ることできる。中谷（1991）が Palmore や Green の論文をまとめて述べているように、決してネガティブな要因がポジティブな要因を排除するわけではないようである。

（3）一般的老人イメージと自己老人イメージの比較から

「一般的老人イメージ」と「自己老人イメージ」の比較から、現代の大学生は老後に対する不安を顕在化しているように感じられる。有意差が見られた項目で、「自己老人イメージ」がネガティブな傾向を持つものは、日常生活や対人関係に対するものが多い。たとえば「不幸だと思っている」「自分の将来に希望がないと考えている」「いつも疲れを感じている」「お金がたりないことを心配している」「自分自身をみじめだと思っている」などの項目は日常生活の困窮をイメージさせ、「息子や孫の迷惑になっている」「まわりの人を困らせることが多い」「孫を甘やかしている」などの項目は家族や近親者に迷惑をかけるのではないかと言う不安を象徴しているように思われる。また、「もう一度若くなりたいと願っている」「死ぬことを何よりも怖がっている」では衰えに対する不安や、若者特有の“死に対する不安処理”が未熟な面を反映した結果として考えることができる。「豊かな経験や知識を持っている」「まわりの人から尊敬されている」などの項目に関しても、将来に対する不安が「自己老人イメージ」の評価値を下げる要因になっているのではなかろうか。

逆に「一般的老人イメージ」の方がネガティブな傾向を持つものとして、「自分のやり方を変えない」「病気で寝ていることが多い」「助言や忠告をしたがる」「頭がぼける」などであり、通俗的な老人イメージと一致することが多い。通俗的な老人イメージとしてはステレオタイプなものが多く、よく用いられる言葉として“老化”、“頑固”、“お節介”、“ぼけ”があげられる。これらのステレオタイプな老人イメージは「自己老人イメージ」とはかけ離れたものとしてイメージされているのではなかろうか。

2. 「祖父母との同居」経験別イメージ

「一般的老人イメージ」については「祖父母との同居」経験別に有意差は見られなかった。「自己老人イメージ」では「息子や孫の迷惑になっている」に有意差が見られ、多重比較検定をおこなった結果、“同居したことがある”と“同居していない”の間に有意差が見られた。

“同居している”グループの評価値は“同居していない”グループに近く、“同居したことがある”グループのみがネガティブな評価をしていることになる。解釈としては難しいが、“同居したことがある”グループの中には祖父母の病気などによって介護経験や「みとり」の経験を有しているものがある可能性がある。その結果、自分自身が要介護状態や認知症などになるリスクを考え、家族に対する配慮が働く可能性を示唆しているのではなかろうか。

3. 「高齢者との交流経験」別イメージ

「一般的老人イメージ」「自己老人イメージ」では回答カテゴリーの“わからない”を除いた“多い”“普通”“少ない”の3カテゴリーで分析を行った。

「一般的老人イメージ」では「友だちがたくさいる」「まわりの人を困らせることが多い」「病気で寝ていることが多い」で有意差が見られ、交流経験の“多い”グループの方が高齢者の活動性や対人関係をポジティブに評価していることが示されている。主観的な交流経験のからの分析ではあるが、「一般的老人イメージ」においては交流経験の程度がその行動的な側面に影響を及ぼしていることが考えられる。

「自己老人イメージ」では「一人ぼっちだ」「友だちがたくさいる」「まわりの人を困らせることが多い」「孫を甘やかしている」「助言や忠告をしたがる」「豊かな経験や知識を持っている」「髪や服装に気をつかわず、だらしない」で有意差が見られた。「自己老人イメージ」では交流経験の“多い”グループの方が自己老人像を概ねポジティブにとらえる傾向を示している。特に活動性や対人関係にかかわる項目についてその傾向が高い。しかし、「まわりの人を困らせることが多い」「孫を甘やかしている」など、大学生自身の受け手としての経験が反映されたと考えられるような項目において、交流経験の“多い”グループの方が「あてはまる」と考えている傾向が示されている。交流経験の“多い”グループは「老人」をポジティブに評価する側面とネガティブに評価する側面を明確に示す傾向が見られるのではなかろうか。

交流経験の程度が「老人イメージ」に大きな影響を及ぼしていることが上述のことから示された。特に「老人の活動性」や「対人関係」に関する項目がイメージに大きく関与しており、自己老人イメージにそれが顕著に現われている。主観的ではあるが交流経験が“多い”と考える大学生は「老人」に対して比較的ポジティブなイメージを持つ傾向が示されている。

4. 因子分析による「一般的老人イメージ」と「自己老人イメージ」

(1) 一般的老人イメージ

「一般的老人イメージ」では「衰え」「現実的不安」「経験・知識」「関心の方向性」という4つの因子が抽出された。結果で示した通り、大学生の持つ「一般的老人イメージ」は社会通念上からかけ離れたものではなく、むしろそれにかかなり近いものであると考えられる。

第1因子の「衰え」や第2因子の「現実的不安」に示されているように老人のイメージにはネガティブな要素が強く影響しているようである。身体的な衰えや知的機能の低下がそのイメージの中心であるとともに、そこから生じてくる死の問題や生活の不安も老人のイメージを構成する要素であると考えられる。また、第4因子の「関心の方向」は健康への不安などに代表されるように、その関心が自分自身や内面的なことに向けられることをイメージしたものと思われる。

その反面、第3因子に見られる「経験・知識」は老人のポジティブな側面を示すものとして興味深い。いわゆる「賢者」としてのイメージととらえることができるであろう。さまざまな物語に登場する「賢者」の多くは白髪で顎鬚をたくわえた「老人」の姿で示されることが多い。このようなイメージが「老人」のイメージに影響を与えているとしても不思議ではない。また、現実においても老人の持つ経験や知識は「知恵」として示されることも老人のイメージを構成するうえで影響していることが考えられる。

(2) 自己老人イメージ

「自己老人イメージ」では「老後不安」「負担感」「死」「経験・知識」の4つの因子が抽出された。「一般的老人イメージ」とは異なり、自身の“老い”に関するイメージが直接反映されたものとなっているようである。

第1因子は「老後不安」は生活に対する不安や希望の希薄さを直接反映したものではなく、衰えていく「自分自身」に対する不安を反映したものと考えられる。さらに第2因子の「負担感」についても結果で述べた通り「家族や周囲に対する負担をかけるのではないか」という不安が示されている。これらは現代の高齢者問題や介護問題が強く反映した結果であると考えられる。第3因子の「死」については死に対する恐怖や若さに対する羨望を意識した項目が中心であり、死に対する不安や恐怖が直接的に示されたものと考えられることができる。

第4因子の「経験・知識」は「一般的老人イメージ」と同様に、ポジティブなイメージを構成している因子であるとともに将来像に対する願望が含まれていると思われる。「老人」のイメージとしての「賢者」であるとともに、自分自身が畏敬の対象としての「老人」になることを期待あるいは意識したものであろう。

「自己老人イメージ」は単なるイメージだけではなく、青年期特有の不安感や死に対する恐怖、さらには“老い”に対するステレオタイプなイメージも含まれていると考えられ、生涯発達の視点を含めた縦断的な分析が必要であると考えられる。

(3) 一般的老人イメージと自己老人イメージの比較

老人観スケールはその項目内容がネガティブな面から質問しているものが多いと考えられる。これらを“どう評価するか”という視点から老人観を捉えようとしているものと考えられる。そのため、因子分析にかけると項目の特性上ネガティブな因子が抽出され傾向にある。馬場ら（1993）は中学生に対して行った調査結果を主成分分析にかけ、「健康・死に関する次元」「社会性に関する次元」「頑固さ・保守性に関する次元」「幸福感に関する次元」という4つの主成分を抽出している。そして、その項目の示す内容よりも項目の示す枠組みで考察を進めている。

今回は質問項目の内容から因子の命名を試みたところ「一般的老人イメージ」「自己老人イメージ」のいずれもネガティブな因子名が上位に抽出された。大学生のもつ「老人」のイメー

ジは「一般的」なものであろうと「自己」のものであろうとネガティブなものであることは変わらないようである。しかし、「一般的老人イメージ」が行動面や表面的な現象を象徴する項目が優位であるなか、「自己老人イメージ」は内面的・情緒的な側面からイメージが構成されている傾向が見られる。「自己老人イメージ」は現実の現象から生じる情緒的な要因によって構成されているようである。言い換えれば、自分自身の“老いの現象”よりもそのことに伴う第三者からの評価（自分がどう見られているか）が自己イメージを決定する要素として強いと考えられる。

老人観スケールで中学生の老人イメージの測定を試みた馬場らの研究では「健康・死に関する次元」「社会性に関する次元」「頑固さ・保守性に関する次元」「幸福感に関する次元」の4つの因子が因子分析の結果から導かれている。今回導かれたの大学生の「一般的老人イメージ」の「衰え」「現実的不安」「経験・知識」「関心の方向性」と比較して見ると第1因子についてはお互いに共通するところが多いが、馬場らの研究では「幸福感に関する次元」が第4因子であるのに対して、本研究においてはそれに該当する「現実的不安」に関する因子が第2因子となっており、高齢者社会に対する認識の違いを含めて、発達段階によるイメージの違いが示唆されている。また、「自己老人イメージ」の第1因子が「現実的不安」に近い「老後不安」であることも興味深い結果である。

今後、それぞれの「老人イメージ」に影響を与えている要因について明らかにすることが必要だと考えられる。それとともに、SD法等の別の測定法を用いた場合の結果と比較・関連を検討し、考察を進めて行くことが求められるであろう。

謝 辞

この研究は東京未来大学教授田中マユミ先生との共同研究の一部をまとめたものです。ご指導・ご助言いただいた田中先生に心から感謝いたします。

参考文献

- 馬場純子 中野いく子 冷水豊 中谷陽明 1993 中学生の老年観 ―老人観スケールによる測定― 社会老年学、38、3-12.
- 藤田綾子 2000 高齢者と適応 ナカニシヤ出版
- 古谷野巨 児玉好信 安藤孝敏 浅川達也 1997 中高年の老人イメージ ―SD法による測定― 老年社会科学、18(2)、147-152.
- 保坂久美子 柚井孝子 1988 大学生の老人イメージ ―SD法による分析― 社会老年学 27、

22-33.

- 保坂久美子 袖井孝子 1986 大学生の老人観 老年社会科学 8、103-116
- 井上勝也(編) 2005 最新介護福祉全書8 老人の心理と援助 メヂカルフレンド社
- Kimmel, D.C. 1990 *ADULTHOOD AND AGING*. New York: John Wiley & Sons, Inc. 加藤義明
(監訳) 1994 高齢化時代の心理学 プレーン出版
- Kogan, N. 1961 Attitudes Toward Old People. The Development of A Scale and an Examination of Correlates *Journal of Abnormal and Social Psychology*, 62 (1), 44-54.
- 南博文 やまだようこ 1995 講座生涯発達心理学5 老いることの意味 中年・老年期 金子書房
- 森幹郎 1989 老いとは何か ミネルヴァ書房
- 長島紀一 佐藤清公(編著) 1990 老人心理学 健帛社
- 中野いく子 1991 児童の老人イメージ -SD法による測定と要因分析- 社会老年学 34、23-36.
- 中野いく子 冷水豊 中谷陽明 馬場純子 1994 小学生と中学生の老人イメージ -SD法による測定と比較- 社会老年学 39、11-22
- 中谷陽明 1991 児童の老人観 -老人観スケールによる測定と要因分析- 社会老年学 34、13-22.
- 尾形和男(編著) 2003 これからの福祉心理学 北大路書房
- Olejnuk, A. B. & LaRue, A.A. 1981 Changes in adolescents' perceptions of aged : the effects of intergenerational contact. *Educational Gerontology : An International Quarterly*, 6、339-351.
- 大澤一六 1934 益軒養生訓 荻原星文館
- 大塚邦子 正野逸子 日野瑞枝 日浦瑞枝 白井由里子 1999 看護学生の老人のイメージ -SD法によるイメージの評価と描画特徴とを中心に- 老年看護学 4(1)、98-104.
- Tuckman, J. & Lorge, I. 1953 Attitudes toward old people. *The Journal of Social Psychology*, 37、249-260.
- Tuckman, J. & Lorge, I. 1958 Attitude toward aging of Individuals with experiences with the ages. *The Journal of Genetic Psychology*, 92、199-204.
- 佐藤真一 1993 老人観 京極高宣(監修) 現代福祉学レキシコン 雄山閣Pp.334.
- Santrock, J. W. 1985 *ADULT DEVELOPMENT AND AGING*. Dubuque, IA.: William.C. Brown Publishers. 今泉信人 南博文(編訳) 1992年 成人発達とエイジング 北大路書房
- 新村拓 1991 日本における老人観と死生観の変遷 老年精神医学雑誌、2(8)、986-991.
- 橘覚勝 1971 老年学 誠信書房
- 高橋一公 2006 福祉専攻学生の高齢者のイメージ 身延山大学仏教学部紀要、7、133-146.
- 谷口幸一(編著) 1997 成熟と老化の心理学 コレール社

資料 1

各項目の基本統計量

項 目	一般的老人イメージ			自己老人イメージ		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
1. もう一度若くなりたいと願っている	358	1.865922	0.878572	358	1.667598	0.912785
2. 自分のやり方を変えない	357	1.960784	0.850398	358	2.092179	0.910502
3. もうすぐ死ぬことを心配している	358	2.50838	0.918949	358	2.494413	1.031016
4. 異性には興味を持っていない	357	2.837535	0.903453	357	2.885154	0.921484
5. 不幸だと思っている	354	3.350282	0.757521	355	3.078873	0.853361
6. 忘れっぽい	356	1.960674	0.83489	358	2.050279	0.864965
7. 息子や孫の迷惑になっている	356	3.073034	0.81552	358	2.636872	0.890021
8. 一人ぼっちだ	358	2.874302	0.849029	357	2.829132	0.93703
9. 食べ物で文句をいう	358	2.913408	0.860453	357	2.943978	0.916269
10. 自分の将来に希望がないと考えている	357	2.815126	0.854266	358	2.698324	0.945902
11. いつも疲れを感じている	357	2.529412	0.928544	356	2.283708	0.869427
12. 友だちがたっさいる	358	2.23743	0.834848	358	2.312849	0.893426
13. 死ぬことを何よりも怖がっている	357	3.190476	0.866103	355	2.971831	0.970931
14. お金がたりないことを心配している	356	2.766854	0.912586	357	2.484594	0.928883
15. まわりの人を困らせることが多い	358	2.74581	0.802428	357	2.521008	0.866175
16. 孫を甘やかしている	355	2.053521	0.935766	357	1.885154	0.855076
17. 自分の健康について心配している	358	1.905028	0.772008	358	1.882682	0.855158
18. 自分自身をみじめだと思っている	355	3.169014	0.747612	356	2.994382	0.884911
19. 政治や社会の出来事に関心が強い	358	2.371508	0.900652	356	2.258427	0.931793
20. 病気で寝ていることが多い	357	2.817927	0.829859	357	2.985994	0.836207
21. まわりの人から尊敬されている	356	2.435393	0.807559	357	2.745098	0.854275
22. 助言や忠告をしたがる	358	2.148045	0.815043	357	2.319328	0.879857
23. 豊かな経験や知識を持っている	358	1.748603	0.787462	358	2.181564	0.821964
24. 頭がぼける	354	2.234463	0.837404	357	2.352941	0.889277
25. 髪や服装に気をつかわず、だらしない	358	2.955307	0.808368	357	3.028011	0.860689

注 1 : あてはまる=1 やあてはまる=2 あまりあてはまらない=3 まったくあてはまらない=4

資料 2

同居経験別一般的老人イメージ基本統計量

項 目	同居している			同居したことがある			同居していない		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
1. もう一度若くなりたいと願っている	66	1.787879	0.754783	86	1.953488	0.992999	206	1.854369	0.86569
2. 自分のやり方を変えない	66	1.939394	0.909417	85	1.941176	0.850111	206	1.975728	0.834847
3. もうすぐ死ぬことを心配している	66	2.621212	0.92429	86	2.534884	0.929233	206	2.461165	0.913822
4. 異性には興味を持っていない	65	2.769231	0.948176	86	2.825581	0.856695	206	2.864078	0.911162
5. 不幸だと思っている	66	3.227273	0.81892	84	3.404762	0.777996	204	3.367647	0.727458
6. 忘れっぽい	66	1.909091	0.817638	86	2.046512	0.86646	204	1.941176	0.828359
7. 息子や孫の迷惑になっている	66	3.287879	0.718228	86	3.034884	0.900296	204	3.019608	0.800005
8. 一人ぼっちだ	66	3.060606	0.820484	86	2.883721	0.899916	206	2.81068	0.831151
9. 食べ物のことで文句をいう	66	2.939394	0.92618	86	2.965116	0.860201	206	2.883495	0.841613
10. 自分の将来に希望がないと考えている	66	2.818182	0.857709	85	2.788235	0.874154	206	2.825243	0.848841
11. いつも疲れを感じている	65	2.523077	1.001681	86	2.488372	0.904163	206	2.548544	0.91868
12. 友だちがたくさいる	66	2.212121	0.868512	86	2.209302	0.813363	206	2.257282	0.836264
13. 死ぬことを何よりも怖がっている	66	3.333333	0.810191	86	3.151163	0.914169	205	3.160976	0.862304
14. お金がないことを心配している	66	2.848485	0.964643	86	2.744186	0.94789	204	2.75	0.882925
15. まわりの人を困らせることが多い	66	2.863636	0.801659	86	2.790698	0.798768	206	2.68932	0.802789
16. 孫を甘やかしている	66	2.181818	1.0364	84	1.904762	0.913342	205	2.073171	0.907222
17. 自分の健康について心配している	66	1.924242	0.846906	86	1.77907	0.69284	206	1.951456	0.776215
18. 自分自身をみじめだと思っている	65	3.230769	0.785995	85	3.164706	0.753516	205	3.15122	0.735354
19. 政治や社会の出来事に関心が強い	66	2.333333	0.865285	86	2.372093	0.933639	206	2.383495	0.90177
20. 病気で寝ていることが多い	66	2.939394	0.874929	86	2.848837	0.819145	205	2.765854	0.818778
21. まわりの人から尊敬されている	66	2.348485	0.754319	85	2.411765	0.849287	205	2.473171	0.807752
22. 助言や忠告をしたがる	66	2.090909	0.872261	86	2.186047	0.833301	206	2.150485	0.791217
23. 豊かな経験や知識を持っている	66	1.878788	0.850613	86	1.744186	0.754376	206	1.708738	0.779381
24. 頭がぼける	65	2.153846	0.922476	85	2.305882	0.831286	204	2.230392	0.812984
25. 髪や服装に気をつかわず、だらしない	66	3.075758	0.770826	86	2.883721	0.873379	206	2.946602	0.791456

注1：あてはまる=1 ややあてはまる=2 あまりあてはまらない=3 まったくあてはまらない=4

資料3

同居経験別自己老人イメージ基本統計量

項 目	同居している			同居したことがある			同居していない		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
1. もう一度若くなりたいと願っている	66	1.72727	0.9372	86	1.69767	1.0183	206	1.63592	0.860216
2. 自分のやり方を変えない	66	1.89394	0.8252	86	2.13953	0.95994	206	2.13592	0.911162
3. もうすぐ死ぬことを心配している	66	2.5303	1.0557	86	2.47674	1.08168	206	2.49029	1.006032
4. 異性には興味を持っていない	66	2.72727	0.8512	85	3	0.96362	206	2.88835	0.922436
5. 不幸だと思っている	66	3.18182	0.8755	84	3.16667	0.81895	205	3.00976	0.857437
6. 忘れっぽい	66	2.19697	0.9801	86	2	0.82605	206	2.02427	0.840669
7. 息子や孫の迷惑になっている	66	2.72727	0.8512	86	2.39535	0.93657	206	2.70874	0.868203
8. 一人ぼっちだ	66	2.95455	0.9187	85	2.84706	0.96985	206	2.78155	0.929047
9. 食べ物のことで文句をいう	66	2.89394	0.8616	86	3.01163	0.95171	205	2.93171	0.921007
10. 自分の将来に希望がないと考えている	66	2.69697	0.9918	86	2.62791	1.02952	206	2.72816	0.896543
11. いつも疲れを感じている	65	2.35385	0.8372	86	2.23256	0.87682	205	2.28293	0.87892
12. 友だちがたくさいる	66	2.15152	0.8813	86	2.32558	0.9132	206	2.35922	0.887357
13. 死ぬことを何よりも怖がっている	66	3.09091	1.0187	84	2.96429	1.01134	205	2.93659	0.939795
14. お金がたりないことを心配している	65	2.69231	0.9988	86	2.4186	0.92628	206	2.4466	0.902335
15. まわりの人を困らせることが多い	65	2.44615	0.8484	86	2.39535	0.8715	206	2.59709	0.865485
16. 孫を甘やかしている	66	1.71212	0.7599	86	1.95349	0.90628	205	1.9122	0.858691
17. 自分の健康について心配している	66	1.98485	0.9197	86	1.77907	0.78816	206	1.8932	0.860092
18. 自分自身をみじめだと思っている	66	3.06061	0.9262	85	2.97647	0.8588	205	2.98049	0.885399
19. 政治や社会の出来事に関心が強い	66	2.19697	0.8809	84	2.27381	0.96131	206	2.27184	0.939062
20. 病気で寝ていることが多い	66	3.13636	0.6992	85	2.96471	0.93155	206	2.9466	0.833484
21. まわりの人から尊敬されている	66	2.80303	0.808	86	2.76744	0.80695	205	2.71707	0.890005
22. 助言や忠告をしたがる	66	2.33333	0.8102	86	2.22093	0.91267	205	2.3561	0.888392
23. 豊かな経験や知識を持っている	66	2.27273	0.8329	86	2.13953	0.81404	206	2.1699	0.823595
24. 頭がぼける	66	2.21212	0.8685	85	2.38824	1.00112	206	2.3835	0.845948
25. 髪や服装に気をつかわず、だらしない	66	3.07576	0.8469	86	3.06977	0.94297	205	2.99512	0.831356

注1: あてはまる=1 ややあてはまる=2 あまりあてはまらない=3 まったくあてはまらない=4

資料 4

交流経験別一般的老人イメージ基本統計量

項 目	多 い			普 通			少 ない		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
1. もう一度若くなりたいと願っている	67	1.95522	0.91176	144	1.86111	0.88981	141	1.81560	0.84179
2. 自分のやり方を変えない	67	2.08955	1.01102	144	1.95139	0.73218	140	1.90714	0.88875
3. もうすぐ死ぬことを心配している	67	2.56716	1.03315	144	2.48611	0.89275	141	2.47518	0.89108
4. 異性には興味を持っていない	67	2.76119	0.97062	143	2.89510	0.90159	141	2.81560	0.88320
5. 不幸だと思っている	66	3.24242	0.96174	142	3.41549	0.64404	140	3.33571	0.76441
6. 忘れっぽい	66	1.87879	0.79450	143	2.02797	0.78672	141	1.93617	0.90406
7. 息子や孫の迷惑になっている	67	3.13433	0.81456	143	3.10490	0.84515	140	3.00000	0.79567
8. 一人ぼっちだ	67	3.00000	0.90453	144	2.94444	0.77349	141	2.74468	0.88159
9. 食べ物のことで文句をいう	67	2.85075	0.85730	144	2.98611	0.86894	141	2.87943	0.84916
10. 自分の将来に希望がないと考えている	67	2.77612	0.98197	144	2.84028	0.78146	140	2.80714	0.86412
11. いつも疲れを感じている	66	2.57576	1.03865	144	2.55556	0.94446	141	2.46809	0.87467
12. 友だちがたくさいる	67	1.98507	0.92920	144	2.23611	0.75712	141	2.36879	0.84862
13. 死ぬことを何よりも怖がっている	67	3.28358	0.86700	143	3.20979	0.79482	141	3.12057	0.93713
14. お金がたりないことを心配している	67	2.74627	0.95890	144	2.82639	0.87170	139	2.70504	0.93602
15. まわりの人を困らせることが多い	67	2.85075	0.80253	144	2.82639	0.73218	141	2.60993	0.86827
16. 孫を甘やかしている	67	2.13433	1.01348	144	2.11806	0.95710	138	1.96377	0.87470
17. 自分の健康について心配している	67	1.73134	0.66474	144	1.93750	0.82121	141	1.93617	0.76730
18. 自分自身をみじめだと思っている	67	3.08955	0.82996	142	3.23944	0.67298	140	3.12143	0.78170
19. 政治や社会の出来事に関心が強い	67	2.38806	1.05823	144	2.31250	0.87281	141	2.40426	0.85339
20. 病気で寝ていることが多い	67	2.91045	0.86570	144	2.93056	0.77236	140	2.65714	0.84625
21. まわりの人から尊敬されている	66	2.40909	0.91108	144	2.36806	0.75490	140	2.51429	0.80899
22. 助言や忠告をしたがる	67	2.08955	0.79260	144	2.09028	0.81861	141	2.24113	0.82722
23. 豊かな経験や知識を持っている	67	1.74627	0.78515	144	1.69444	0.75055	141	1.81560	0.83326
24. 頭がぼける	67	2.22388	0.90153	143	2.26573	0.81319	138	2.18841	0.84188
25. 髪や服装に気をつかわず、だらしない	67	3.10448	0.81899	144	2.91667	0.80644	141	2.90071	0.80450

注1：あてはまる=1 ややあてはまる=2 あまりあてはまらない=3 まったくあてはまらない=4

注2：「わからない」を除いた「多い」「普通」「少ない」の категорияで分析

資料 5

交流経験別自己老人イメージ基本統計量

項 目	多 い			普 通			少 ない		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
1. もう一度若くなりたいと願っている	67	1.76119	0.97062	144	1.54861	0.86768	141	1.71631	0.91282
2. 自分のやり方を変えない	67	1.95522	0.91176	144	2.09028	0.87637	141	2.14894	0.94064
3. もうすぐ死ぬことを心配している	67	2.52239	1.06399	144	2.45833	1.03691	141	2.49645	1.00445
4. 異性には興味を持っていない	67	2.92537	0.94249	144	2.99306	0.93492	140	2.75714	0.88041
5. 不幸だと思っている	67	3.13433	0.91941	144	3.11111	0.85371	138	3.00725	0.82388
6. 忘れっぽい	67	1.95522	0.97597	144	2.14583	0.85255	141	1.97872	0.81476
7. 息子や孫の迷惑になっている	67	2.58209	1.01726	144	2.73611	0.86894	141	2.54610	0.84071
8. 一人ぼっちだ	67	2.80597	1.04792	143	3.00699	0.87610	141	2.66667	0.92324
9. 食べ物のことで文句をいう	66	2.81818	1.03640	144	3.02778	0.87661	141	2.90780	0.90159
10. 自分の将来に希望がないと考えている	67	2.67164	0.97527	144	2.75694	0.94792	141	2.63830	0.92795
11. いつも疲れを感じている	67	2.29851	0.92138	142	2.38732	0.89798	141	2.18440	0.81594
12. 友だちがたくさいる	67	2.25373	0.97458	144	2.18056	0.89796	141	2.48227	0.83326
13. 死ぬことを何よりも怖がっている	66	2.87879	1.11652	143	3.02098	0.93046	140	2.94286	0.94276
14. お金がたりないことを心配している	67	2.46269	1.06356	144	2.61111	0.88587	140	2.37857	0.90933
15. まわりの人を困らせることが多い	66	2.24242	0.91249	144	2.66667	0.81077	141	2.49645	0.87525
16. 孫を甘やかしている	66	1.62121	0.81835	144	1.90278	0.87161	141	2.00000	0.83666
17. 自分の健康について心配している	67	1.92537	0.97411	144	1.81944	0.79026	141	1.87943	0.81482
18. 自分自身をみじめだと思っている	67	2.95522	1.05073	142	3.07746	0.85115	141	2.90780	0.83581
19. 政治や社会の出来事に関心が強い	67	2.17910	1.07203	143	2.14685	0.85546	140	2.39286	0.92679
20. 病気で寝ていることが多い	67	3.07463	0.80366	144	3.04167	0.80969	140	2.87143	0.87197
21. まわりの人から尊敬されている	66	2.75758	0.91249	144	2.70139	0.82851	141	2.78723	0.85196
22. 助言や忠告をしたがる	67	2.10448	0.92334	143	2.26573	0.76867	141	2.48936	0.93821
23. 豊かな経験や知識を持っている	67	1.97015	0.88712	144	2.12500	0.76529	141	2.34043	0.81792
24. 頭がぼける	67	2.41791	0.95583	144	2.39583	0.88672	140	2.26429	0.85335
25. 髪や服装に気をつかわず、だらしない	67	3.17910	0.91990	143	3.10490	0.77563	141	2.89362	0.89205

注1：あてはまる=1 やあてはまる=2 あまりあてはまらない=3 まったくあてはまらない=4
注2：「わからない」を除いた「多い」「普通」「少ない」のカテゴリーで分析

【キーワード】

一般的老人イメージ、自己老人イメージ、老人観スケール、大学生、高齢者との交流経験